

発掘だより No. 29

豊川市諏訪1丁目1番地

平成10年2月20日(金)

TEL (0533) 89-2158 (直)

豊川西部土地区画整理事業地区内埋蔵文化財試掘調査の概要

市教育委員会では、平成8・9年度の2か年にわたり、豊川西部土地区画整理事業地区内の埋蔵文化財(遺跡)の試掘調査を行いました。

この調査は、今後区画整理事業によって影響を受ける埋蔵文化財の位置、範囲、性格などを探る目的で実施したもので、今後の本調査に対する基礎データとなります。

☆ 区域内にはどんな遺跡があるの？

西部土地区画整理事業の行われる地域は、古代(古墳時代～平安時代)の行政・文化の中心地であったところで、近隣には三河国府跡、同国分寺跡、国分尼寺跡などの遺跡が点在しています。

区域内には7箇所の遺跡が確認されており、そのほとんどが古代の遺跡です。(右表参照)

中心となるのは、国府跡と考えられる白鳥遺跡で、その周辺には国府に関連した人々が暮らした集落の跡が点在しています。

また、この地域が穂の国と呼ばれていた時代に、この地域を治めていた国造の墓と考えられる船山古墳も地区内に存在します。

☆ どんなものが出土したの？

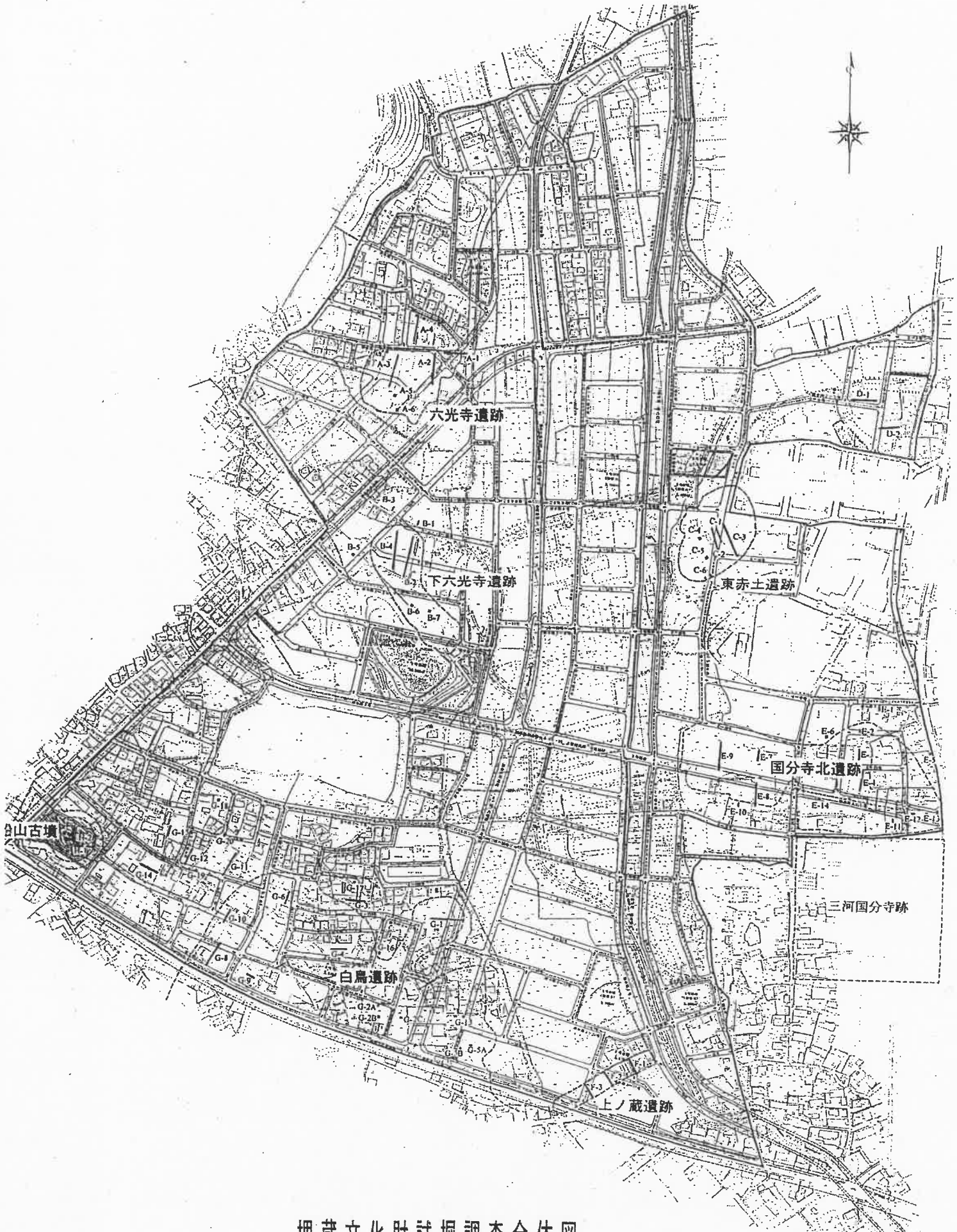
2か年にわたる発掘調査で出土した遺物は、コンテナに換算して約12箱という多量にのびります。

そのほとんどは、当時の人々が使用していた土器類で、須恵器、灰釉陶器といった窯で焼かれた硬い土器が最も多く出土しました。このほかには野焼きで焼かれた比較的柔らかい土器である土師器や、珍しいものでは、当時の高級品の緑釉陶器なども少量発見されています。

また、土器以外の出土品としては、今から1万数千年前の旧石器時代の石器なども出土し、この地域が長い間人々の生活の場であったことが判明しました。

遺 跡 名	時 代	遺 跡 の 概 要
ろっこうじ 六光寺遺跡	古墳～平安時代	古墳時代後期（約 1400 年前）を中心としたの集落跡。 2 軒の竪穴住居跡や須恵器、土師器などが発見されています。
しもろっこうじ 下六光寺遺跡	弥生～平安時代	弥生時代後期（約 1800 年前）の竪穴住居跡や奈良時代の掘立柱建物跡などが確認されており、長い期間存続した遺跡と考えられます。 出土遺物は、須恵器、土師器などのほか、古墳時代の勾玉も出土しました。
ひがしあかつち 東赤土遺跡	奈良～平安時代	奈良時代の竪穴住居跡や須恵器、灰釉陶器などが確認されています。 国府や国分寺に関連した集落跡と考えられます。
こくぶんじきた 国分寺北遺跡	奈良時代～中世	国分寺の経営に関連した遺跡と考えられます。竪穴住居跡や掘立柱建物の柱穴などが確認されています。 中世の時期には砦として利用されていた可能性も考えられ、周辺には土塁状の遺構が認められます。
かみのくら 上ノ蔵遺跡	奈良～平安時代	古代の道路遺構。国府と国分寺・国分尼寺を結んでいたものと考えられます。
しろとり 白鳥遺跡	古墳時代～中世	古代の役所である国府跡の遺跡。掘立柱建物跡や大量の土器類が確認されました。区画整理地区内にもいろいろな施設が点在していたものと考えられます。
ふなやま 船山古墳	古墳時代	古墳時代中期（約 1500 年前）の前方後円墳。全長は 94 m で三河地方で一番大きな古墳です。 円筒埴輪などが出土しました。

【裏面もご覧ください】



埋蔵文化財試掘調査全体図

※番号は調査区番号